

「もっとつながっていききたい」 若手研究者たち 魅力溢れる学術交流 YKS2018全国合同勉強会



「在日同胞若手研究者の会(Young Korean Scientists; 以下 YKS)」が主催する全国合同勉強会が2018年10月13日(土)から14日(日)にかけて、東京都内にて開催されました。この全国合同勉強会は、在日同胞若手研究者たちが学術的な交流をする場として毎年催されており、今回で14回目の開催となりました。今年の全国合同勉強会には、全国各地から学生や研究者、技術者ら総勢30名が参加し、例年以上に大盛況となりました。

今年の全国合同勉強会は懇親会と勉強会の二部構成で行われました。

懇親会では、参加者の皆がフランクに話し合いながら、日々の研究や仕事について共有する場となりました。特に、参加者全員がスライド一枚で行った「自己紹介リレー」では、経歴や趣味などを交えながら自身の研究・仕事内容をシンプルに話すことで、初対面の方々がいる中でも話しやすい雰囲気がつくられました。学生同士が仲良くなったり、先輩方からアドバイスをいただいたりと、様々なバックグラウンドをもつ在日同胞若手研究者たちが交流できた、魅力溢れる懇親会となりました。

勉強会では、三人の大学院生たちの研究発

表による学術交流を行いました。李泰洪さん(奈良先端科学技術大学院 博士2年)が「リン欠乏環境における植物の免疫制御」、金永主さん(名古屋工業大学大学院 修士2年)が「表示分析技術を用いたWEB満足度評価」、鄭洸賢さん(筑波大学大学院 修士2年)が「隊列走行による空気抵抗変化」についてそれぞれ発表しました。

発表者たちは専門外の方々にもわかりやすい内容で話し、活発で自由な質疑応答が参加者全員で繰り広げられ、まさに「在日同胞若手研究者たちの学術交流」と呼ぶにふさわしい有意義な場となりました(写真)。

YKSの全国合同勉強会には、毎回参加する常連の方々もいれば、初めて参加する方々もいます。そのような中でも、「在日同胞若手研究者」という同じ境遇があれば、分け隔てなく話し合っ、つながりを広げていけるのかもしれない。実際、初めての参加者から「このような場があることを知れてよかった。今後自身も積極的に参加しながら、同じ境遇にいる人たちをもっとつながっていききたい。」との感想をいただきました。YKS事務局一同、このような思いを広げていきたい所存でございます。

このような貴重な場を設けるために、今年も成和記念財団の学術活動支援を拝受する事となりました。貴財団の御厚意により、大変有意義な会を催す事ができました。深く御礼申し上げます。

【YKS2018全国合同勉強会事務局】

